

宗務の中期計画スローガン

「ともにお念仏申す身となる」

阿弥陀さまは、生死の苦しみを自らの力では超えることのできないわたしたちをご覧になり、浄土に往生せしめ、仏と成らしめようと本願をおこしてくださいました。その本願のはたらきは、「南無阿弥陀仏」の名号となって、私たちに至りとどいています。宗祖親鸞聖人は、その名号には、「われにまかせよ、必ず救う」という阿弥陀さまの本願のおこころが込められていると明らかにされました。

「お念仏申す身となる」とは、阿弥陀さまの本願のおこころを聞かせていただき、そのはたらきを疑いなく信じよろこぶところに、おのずから「南無阿弥陀仏」と申す身とならせていただくということです。

「南無阿弥陀仏」の名号に込められた阿弥陀さまの本願のおこころは、お釈迦さまによって説き示され、七高僧をはじめとする祖師方によって明らかにされてきました。親鸞聖人は、恩師法然聖人を通して、その法然聖人もまた、善導大師をはじめとする祖師方を通して、「われにまかせよ、必ず救う」という本願のおこころに遇われました。こうして、阿弥陀さまのはたらきの中で、本願のおこころを聞かせていただくご縁が、今日の私たちにまで受け継がれてきたのです。

聖人は、そうしたご縁の中で、ともに本願のおこころを聞いて、お念仏申す人々を、御同行・御同朋として大切にされました。そして、阿弥陀さまの大悲のはたらきが至りとどいているところに教えが弘がり、わたしたちがお念仏をよろこぶ身とならせていただく姿が、仏恩報謝となると示されています。

「ともにお念仏申す身となる」とは、先人方とともに、いま有縁の方々とともに、そしてこれからの人々とともに、阿弥陀さまの本願のおこころを聞かせていただき、そのはたらきを疑いなく信じよろこぶところに、「南無阿弥陀仏」とお念仏申す身とならせていただく歩みであるのです。